

I. 調 査 結 果

1. 人口

C0101-1 人口総数及び増加数

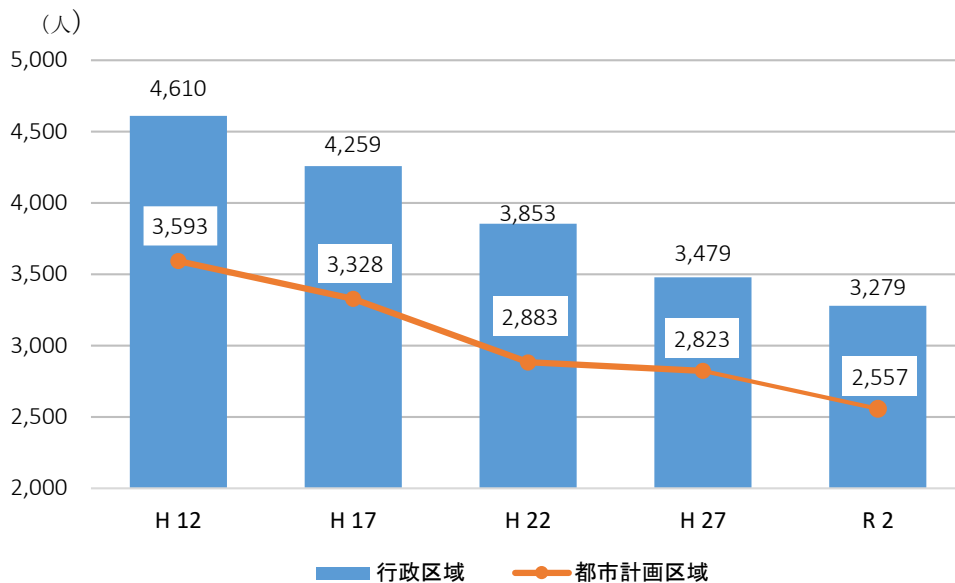
令和2年の野沢温泉村の人口は3,279人である。都市計画区域内の人口は2,557人で総人口の78.0%となっている。人口は減少傾向にあり、平成12年と比較すると令和2年では1,331人(28.9%)の減少となっている。

図表 1-1 人口総数及び増加数

(平成12, 17, 22, 27, 令和2年国勢調査 男女, 年齢(5歳階級), 国籍総数か日本人別人口)

年次	行 政 区 域			都 市 計 画 区 域		
	人口(人)	5年間の増減		人口(人)	5年間の増減	
		人口(人)	率(%)		人口(人)	率(%)
H 12	4,610	-	-	3,593	-	-
H 17	4,259	▲351	▲7.6	3,328	▲265	▲7.4
H 22	3,853	▲406	▲9.5	2,883	▲445	▲13.4
H 27	3,479	▲374	▲9.7	2,823	▲60	▲2.1
R 2	3,279	▲200	▲5.7	2,557	▲266	▲9.4

図表 1-2 人口の推移



C0101-2 年齢・性別人口

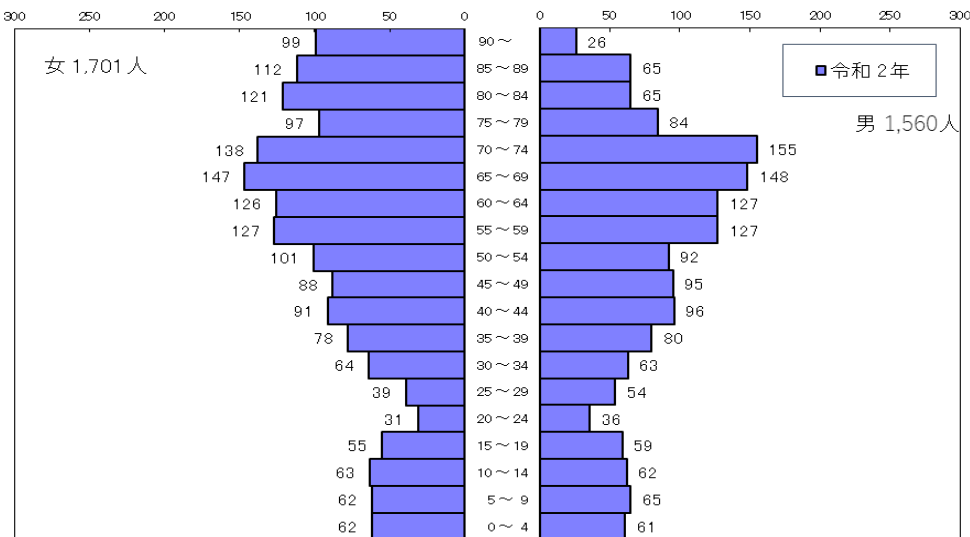
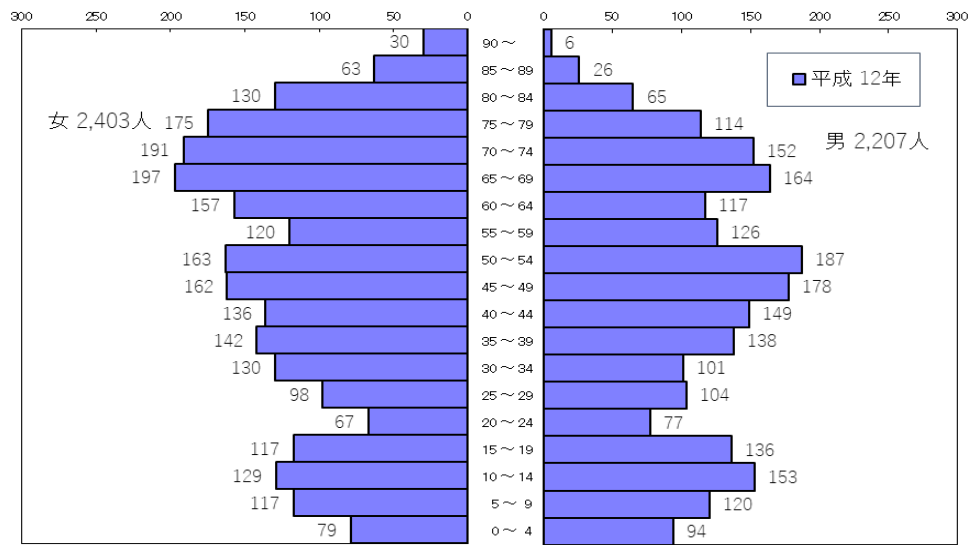
令和2年の総人口は3,279人で、平成12年から減少傾向にある。年齢構成別に平成12年と比較してみると、年少人口（0～14歳）の比率は15.0%から11.5%に減少し、出生率の低下による少子化の進行が顕著である。65歳以上の人口比率は28.5%から38.6%と増加率が高く、少子高齢化が顕著である。年少人口及び生産年齢人口（15～64歳）の減少により将来の労働力不足が懸念される。

図表1-3 年齢・性別人口

(平成12, 17, 22, 27, 令和2年国勢調査 男女, 年齢(5歳階級), 国籍総数か日本人別人口)

年令 階層	平成12年			平成17年			平成22年			平成27年			令和2年			備 考
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	
0 ～ 4	173	94	79	137	67	70	126	60	66	95	51	44	123	61	62	年 少 人 口
5 ～ 9	237	120	117	177	90	87	142	70	72	131	65	66	127	65	62	
10 ～ 14	282	153	129	223	114	109	176	89	87	138	66	72	125	62	63	
15 ～ 19	253	136	117	221	120	101	170	86	84	136	71	65	114	59	55	生 産 年 齢 人 口
20 ～ 24	144	77	67	140	80	60	112	67	45	86	51	35	67	36	31	
25 ～ 29	202	104	98	183	99	84	120	66	54	110	57	53	93	54	39	
30 ～ 34	231	101	130	180	101	79	187	93	94	127	68	59	127	63	64	
35 ～ 39	280	138	142	217	92	125	183	95	88	187	91	96	158	80	78	
40 ～ 44	285	149	136	278	139	139	199	94	105	180	94	86	187	96	91	
45 ～ 49	340	178	162	277	141	136	275	135	140	202	98	104	183	95	88	
50 ～ 54	350	187	163	339	176	163	268	135	133	252	126	126	193	92	101	
55 ～ 59	246	126	120	340	180	160	322	163	159	265	134	131	254	127	127	
60 ～ 64	274	117	157	244	122	122	336	179	157	324	165	159	253	127	126	
65 ～ 69	361	164	197	268	112	156	226	114	112	319	167	152	295	148	147	老 年 人 口
70 ～ 74	343	152	191	334	149	185	241	97	144	202	98	104	293	155	138	
75 ～ 79	289	114	175	289	116	173	295	124	171	222	89	133	181	84	97	
80 ～ 84	195	65	130	226	81	145	240	87	153	237	97	140	186	65	121	
85 ～ 89	89	26	63	130	37	93	162	44	118	168	45	123	177	65	112	
90 ～	36	6	30	56	8	48	73	15	58	98	22	76	125	26	99	
年齢不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	11	7	
再掲 75歳以上	609	211	398	701	242	459	770	270	500	725	253	472	669	240	429	
総 計	4,610	2,207	2,403	4,259	2,024	2,235	3,853	1,813	2,040	3,479	1,655	1,824	3,279	1,571	1,708	

図表 1-4 年代別人口構成比



※令和 2 年の年齢不詳を除く

図表 1-5 年齢別人口推移

(平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 男女, 年齢(5 歳階級), 国籍総数か日本人別人口)

区 分	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
年少人口 (0~14 歳)	692	15.0	537	12.6	444	11.5	364	10.5	375	11.5
生産年齢人口 (15~64 歳)	2,605	56.5	2,419	56.8	2,172	56.4	1,869	53.7	1,629	50.0
老年人口 (65 歳~)	1,313	28.5	1,303	30.6	1,237	32.1	1,246	35.8	1,257	38.6
総 計	4,610	100.00	4,259.0	100.00	3,853.0	100.00	3,479.0	100.00	3,261.0	100.00
人口の増減	-	-	-351	-7.6	-406	-9.5	-374	-9.7	-218	-6.3

※平成 27 年及び令和 2 年の年齢不詳を除く

C0103 将来人口

将来人口の推計では、総人口で令和 2 年の年齢不詳を除いた 3,261 人から徐々に減少し、令和 32 年には 1,894 人（-41.9%）にまで減少すると予想される。年齢構成をみると、年少人口（0～14 歳）は令和 2 年から令和 32 年の 30 年間の推計では 11.5%から 12.1%とわずかに増加するが、老年人口（65 歳以上）の比率が令和 2 年の 38.5%から 46.5%に増加し、生産年齢人口（15～64 歳）は 50.0%から 41.3%に減少していることから、労働力不足が懸念される。

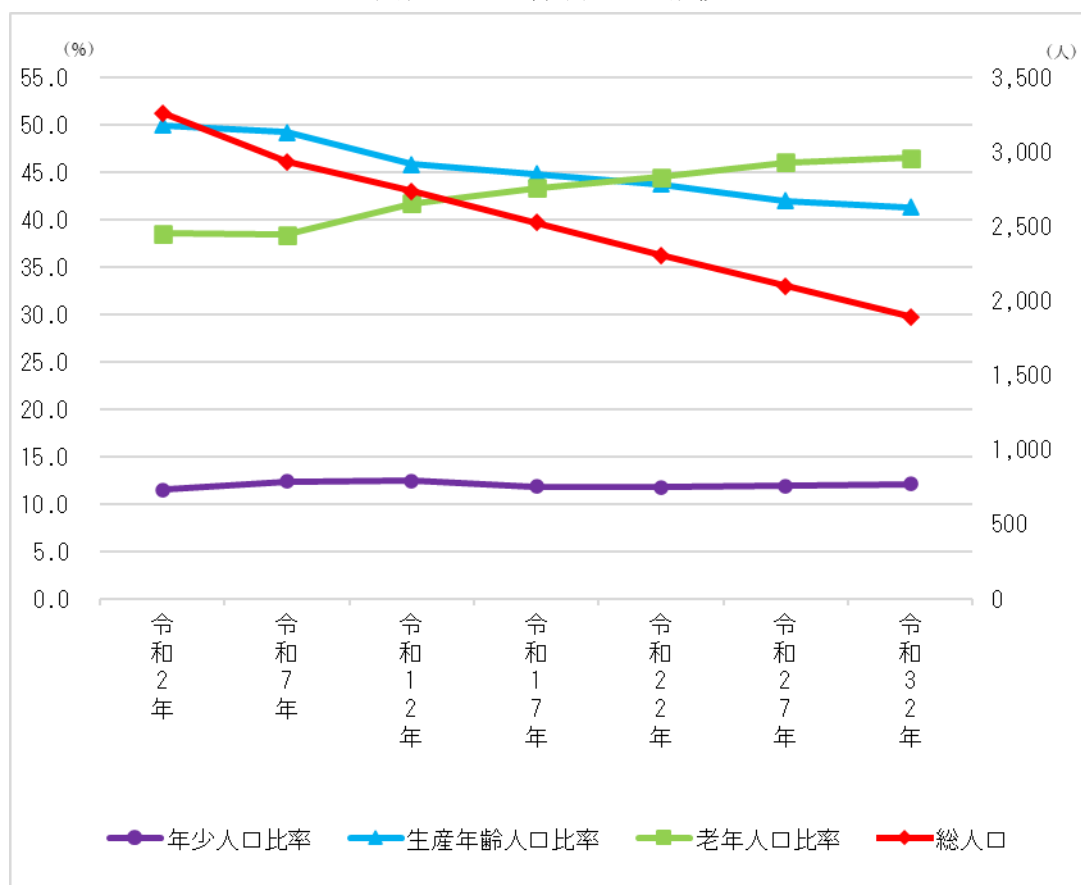
図表 1－6 将来人口

（令和 2 年国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所、令和 6 年推計））

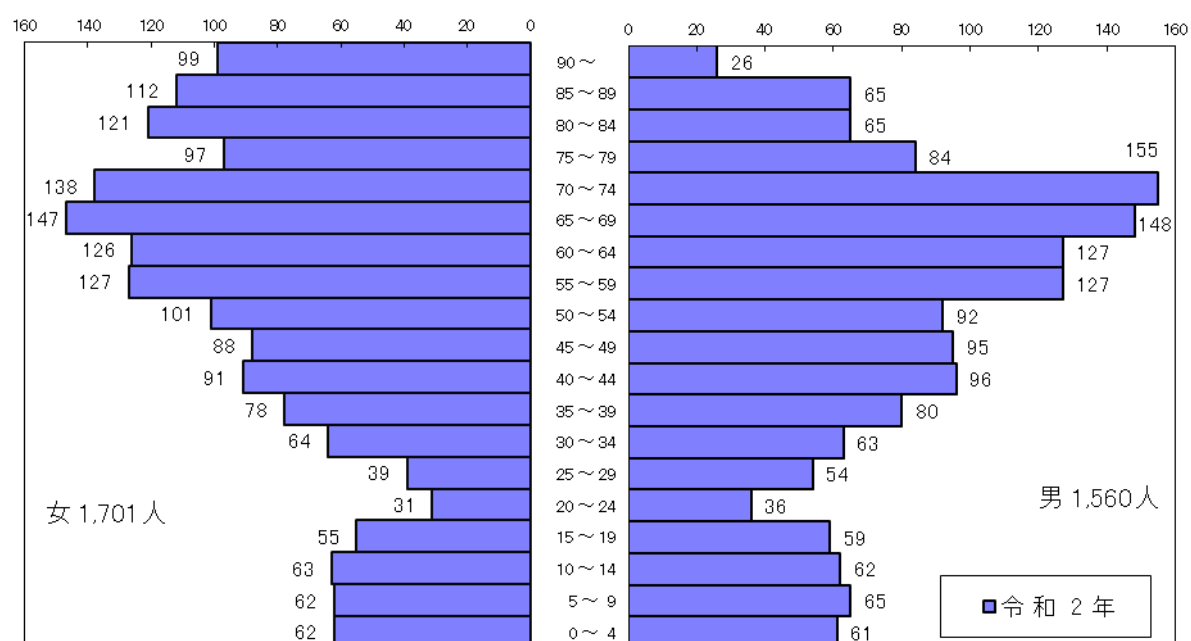
		令和 2 年			令和 7 年			令和 12 年			令和 17 年			令和 22 年			令和 27 年			令和 32 年		
		総 数	男	女	総 数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
総数		3,261	1,560	1,701	2,935	1,418	1,517	2,736	1,327	1,409	2,527	1,226	1,301	2,308	1,117	1,191	2,102	1,010	1,092	1,894	909	985
年 齢 階 級 別	0 ～ 4	123	61	62	106	54	52	94	48	46	82	42	40	76	39	37	70	36	34	65	33	32
	5 ～ 9	127	65	62	134	67	67	116	60	56	105	54	51	94	48	46	88	45	43	80	41	39
	10 ～ 14	125	62	63	124	63	61	130	64	66	113	57	56	102	52	50	93	47	46	85	43	42
	15 ～ 19	114	59	55	98	50	48	98	51	47	102	52	50	89	46	43	81	42	39	73	38	35
	20 ～ 24	67	36	31	61	34	27	52	29	23	52	29	23	54	30	24	48	27	21	43	24	19
	25 ～ 29	93	54	39	73	36	37	64	33	31	55	28	27	55	29	26	58	29	29	50	26	24
	30 ～ 34	127	63	64	107	60	47	83	38	45	72	35	37	62	30	32	62	30	32	66	32	34
	35 ～ 39	158	80	78	139	66	73	118	63	55	94	41	53	81	37	44	70	32	38	69	32	37
	40 ～ 44	187	96	91	152	81	71	134	67	67	114	64	50	89	41	48	78	38	40	67	32	35
	45 ～ 49	183	95	88	192	99	93	156	83	73	137	69	68	118	66	52	93	43	50	82	40	42
	50 ～ 54	193	92	101	178	94	84	185	96	89	150	80	70	133	67	66	114	64	50	90	42	48
	55 ～ 59	254	127	127	192	92	100	175	92	83	182	94	88	148	79	69	131	66	65	113	63	50
	60 ～ 64	253	127	126	252	127	125	190	92	98	174	92	82	180	94	86	148	80	68	130	66	64
	65 ～ 69	295	148	147	233	116	117	235	118	117	178	86	92	163	86	77	170	88	82	139	75	64
	70 ～ 74	293	155	138	263	130	133	216	107	109	219	110	109	166	80	86	152	80	72	158	82	76
	75 ～ 79	181	84	97	257	132	125	244	119	125	202	99	103	206	102	104	157	75	82	144	75	69
	80 ～ 84	186	65	121	140	58	82	217	105	112	208	95	113	173	80	93	178	83	95	136	61	75
	85 ～ 89	177	65	112	124	33	91	108	38	70	171	72	99	164	65	99	139	56	83	144	59	85
	90 ～	125	26	99	110	26	84	121	24	97	117	27	90	155	46	109	172	49	123	160	45	115

※令和2年の数値は年齢不詳を除いた実績値。

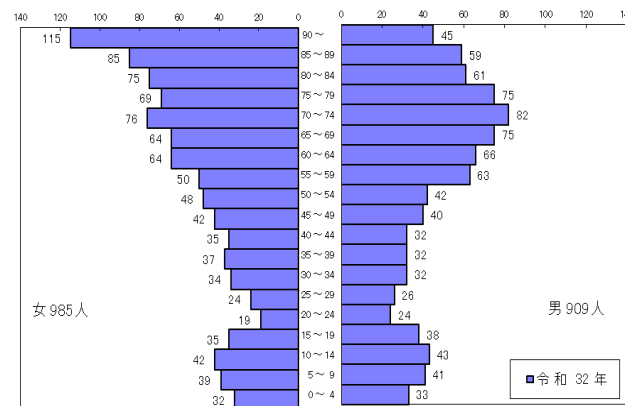
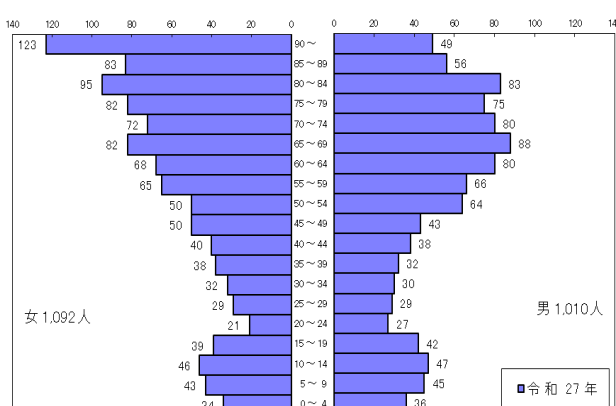
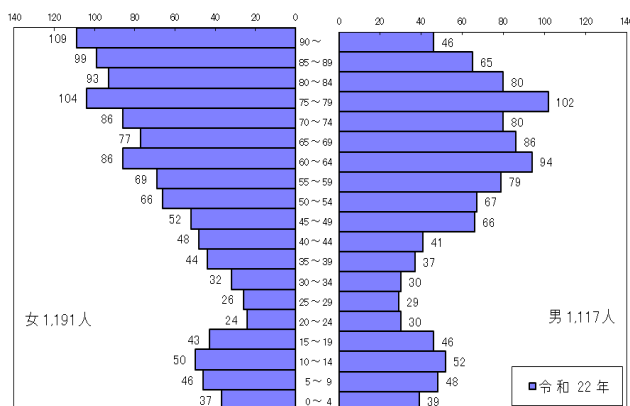
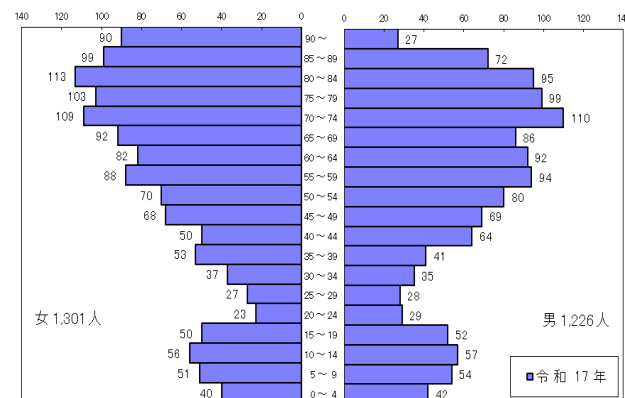
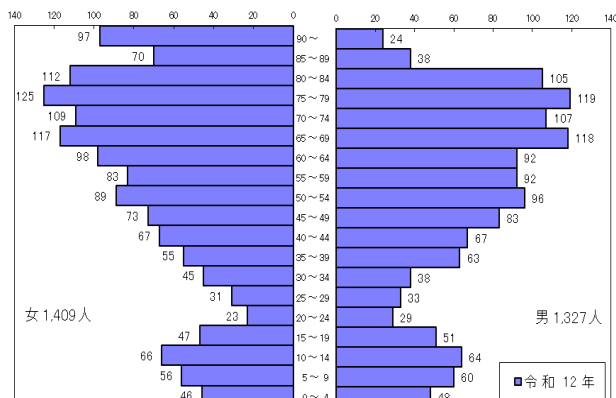
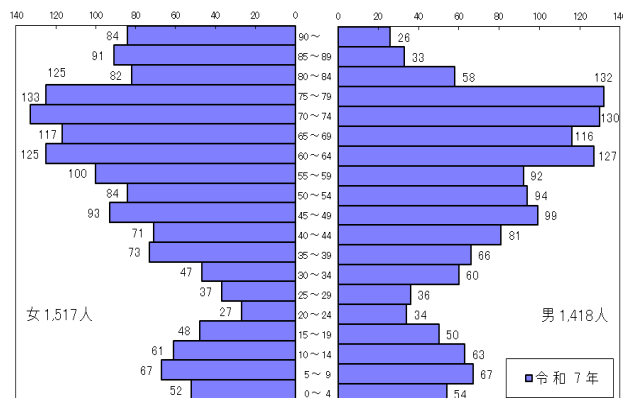
図表 1-7 将来人口の推移



図表 1-8 年代別人口構成比表（実績値：令和2年）



図表 1-9 将来人口年代別人口構成比



C0104 人口増減

行政区域の人口増減の内訳をみると、自然動態は平成 13 年以降、連続して減少している。

社会動態については平成 13 年から平成 24 年までは転出者が転入者を上回っており、自然減と合わせて総人口の減少をもたらしていたが、平成 25 年から転入者が急増し、平成 26 年、29 年、令和 2 年を除き社会増の傾向にある。

令和 4 年以降は自然動態の減少を社会動態の増加が上回り、令和 6 年には 156 人の人口増となっている。

図表 1－10 人口増減の内訳

(野沢温泉村調査(令和 7 年 3 月 31 日現在))

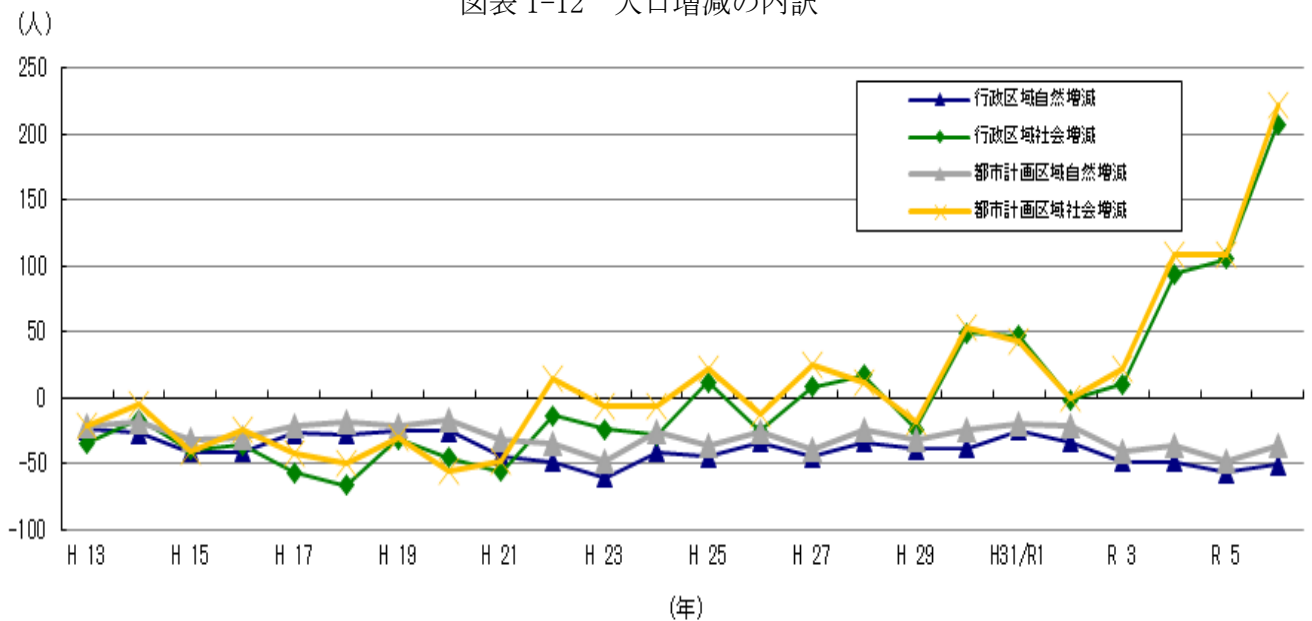
項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減	項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減
	出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増			出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増	
H 13	38	62	▲24	107	142	▲35	▲59	H 25	21	66	▲45	144	132	12	▲33
H 14	36	63	▲27	110	127	▲17	▲44	H 26	24	58	▲34	143	169	▲26	▲60
H 15	25	66	▲41	94	134	▲40	▲81	H 27	19	64	▲45	184	176	8	▲37
H 16	26	67	▲41	105	141	▲36	▲77	H 28	26	60	▲34	208	191	17	▲17
H 17	24	51	▲27	77	134	▲57	▲84	H 29	23	62	▲39	247	271	▲24	▲63
H 18	37	65	▲28	79	146	▲67	▲95	H 30	26	64	▲38	345	296	49	11
H 19	25	51	▲26	103	135	▲32	▲58	H31/R1	31	56	▲25	364	317	47	22
H 20	31	57	▲26	91	137	▲46	▲72	R 2	34	68	▲34	165	167	▲2	▲36
H 21	20	64	▲44	84	140	▲56	▲100	R 3	17	66	▲49	134	124	10	▲39
H 22	17	66	▲49	101	115	▲14	▲63	R 4	17	66	▲49	284	190	94	45
H 23	14	75	▲61	94	118	▲24	▲85	R 5	15	72	▲57	405	300	105	48
H 24	13	54	▲41	97	126	▲29	▲70	R 6	16	67	▲51	557	350	207	156

図表 1-11 人口増減の内訳（都市計画区域）

（野沢温泉村調査(令和 7 年 3 月 31 日現在)）

項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減	項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減
	出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増			出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増	
H 13	30	51	▲21	85	107	▲22	▲43	H 25	18	55	▲37	125	104	21	▲16
H 14	32	51	▲19	94	99	▲5	▲24	H 26	19	45	▲26	132	145	▲13	▲39
H 15	20	52	▲32	79	120	▲41	▲73	H 27	17	56	▲39	170	146	24	▲15
H 16	20	50	▲30	89	114	▲25	▲55	H 28	21	45	▲24	188	177	11	▲13
H 17	18	40	▲22	73	115	▲42	▲64	H 29	20	52	▲32	239	257	▲18	▲50
H 18	34	53	▲19	70	120	▲50	▲69	H 30	23	47	▲24	335	282	53	29
H 19	20	42	▲22	91	121	▲30	▲52	H31/R1	27	47	▲20	348	305	43	23
H 20	27	44	▲17	76	132	▲56	▲73	R 2	32	54	▲22	152	152	0	▲22
H 21	18	50	▲32	74	122	▲48	▲80	R 3	13	54	▲41	122	101	21	▲20
H 22	13	48	▲35	94	80	14	▲21	R 4	16	52	▲36	275	166	109	73
H 23	13	62	▲49	77	84	▲7	▲56	R 5	15	63	▲48	389	281	108	60
H 24	13	39	▲26	91	97	▲6	▲32	R 6	16	53	▲37	550	328	222	185

図表 1-12 人口増減の内訳



C0105 通勤・通学移動

就業者の流出入別人口をみると、流出就業者は平成 17 年に急増しているが、平成 22 年以降は減少傾向に転じている。平成 12 年と比較すると令和 2 年では 30 人(5.5%)の減少となっている。流入就業者は平成 12 年以降、増加傾向にあり平成 12 年と比較すると令和 2 年では 86 人(33.6%)の増加となっている。

令和 2 年の流出先は飯山市が最も多く 256 人(14.3%)、次いで、中野市 85 人(4.7%)、長野市 50 人(2.8%)の順である。流入先も飯山市が最も多く 188 人(11.5%)、次いで中野市 50 人(3.1%)、木島平村 38 人(2.3%)の順である。

図表 1－13 流出・流入別人口（就業者）

（平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における就業者・通学者数）

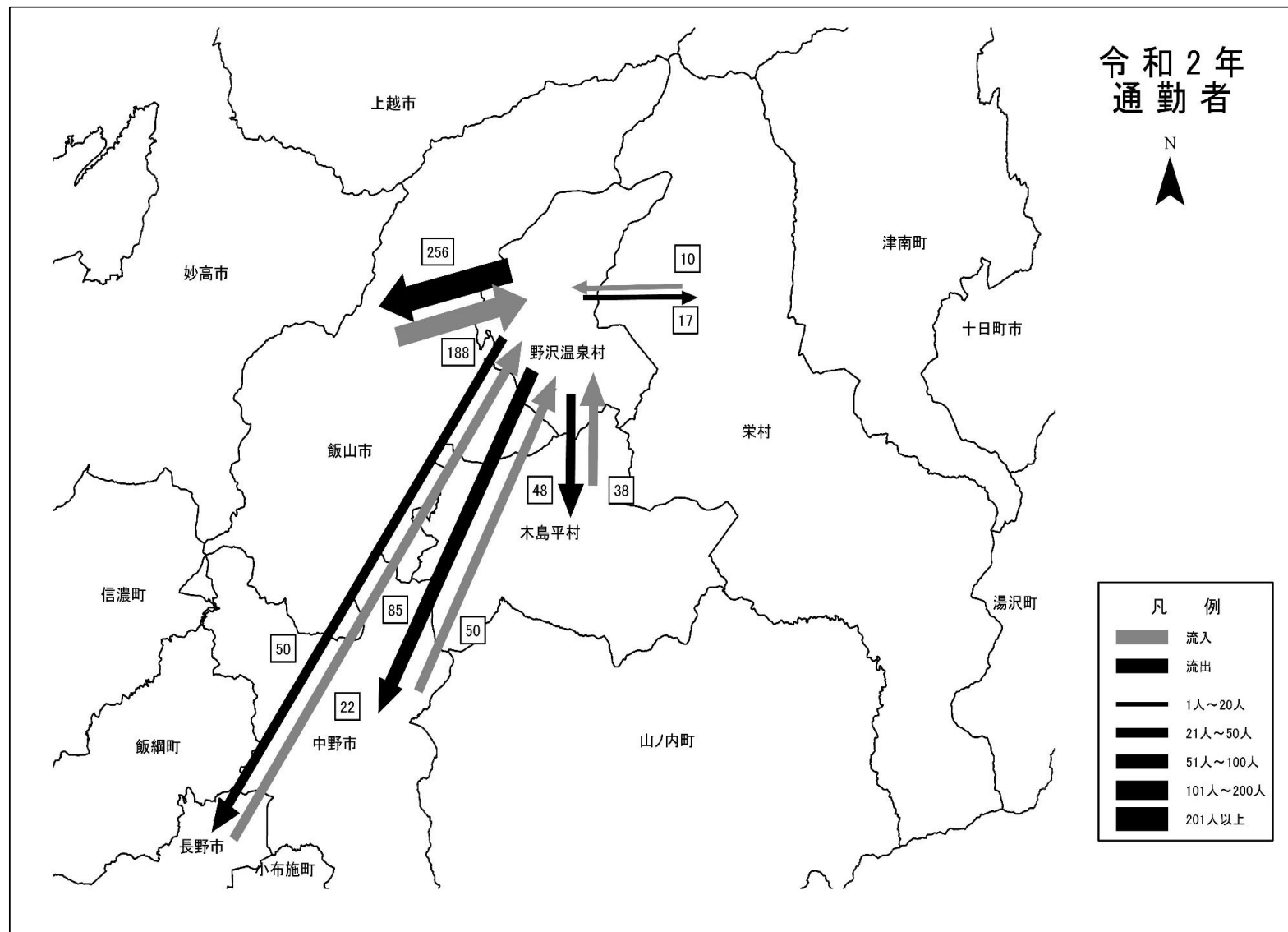
	常住地による 就 業 者 数	流 出		従業地による 就 業 者 数	流 入		従 / 常 就 業 者 比 率
		就 業 者 数	流 出 率		就 業 者 数	流 入 率	
平 成 12 年	人 2,454	人 542	% 22.1	人 2,168	人 256	% 11.8	% 88.3
平 成 17 年	2,460	774	31.5	1,957	271	13.8	79.6
平 成 22 年	2,059	611	29.7	1,738	279	16.1	84.4
平 成 27 年	1,947	558	28.7	1,688	296	17.5	86.7
令 和 2 年	1,794	512	28.5	1,634	342	20.9	91.1

	流 出 先														
	流 出 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成 12 年	飯山市	人 342	% 13.9	中野市	人 63	% 2.6	木島平村	人 49	% 2.0	長野市	人 37	% 1.5	栄 村	人 17	% 0.7
平成 17 年	飯山市	441	17.9	中野市	91	3.7	長野市	84	3.4	木島平村	81	3.3	栄 村	5	0.2
平成 22 年	飯山市	357	17.3	中野市	100	4.9	長野市	52	2.5	木島平村	41	2.0	栄 村	14	0.7
平成 27 年	飯山市	299	15.4	中野市	94	4.8	長野市	50	2.6	木島平村	48	2.5	栄 村	19	1.0
令和 2 年	飯山市	256	14.3	中野市	85	4.7	長野市	50	2.8	木島平村	48	2.7	栄 村	17	0.9

	流 入 先														
	流 入 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成 12 年	飯山市	人 134	% 6.2	木島平村	人 42	% 1.9	中野市	人 34	% 1.6	長野市	人 11	% 0.5	他 県	人 9	% 0.4
平成 17 年	飯山市	143	7.3	木島平村	54	2.8	中野市	37	1.9	その他市町村	27	1.4	他 県	10	0.5
平成 22 年	飯山市	162	9.3	木島平村	45	2.6	中野市	42	2.4	栄 村	10	0.6	長野市	7	0.4
平成 27 年	飯山市	168	10.0	中野市	43	2.5	木島平村	42	2.5	長野市	17	1.0	栄 村	10	0.6
令和 2 年	飯山市	188	11.5	中野市	50	3.1	木島平村	38	2.3	長野市	22	1.3	栄 村	10	0.6

- 注1. 常住地による就業者数とは、当該都市に常住する（夜間人口ベース）就業者数を言う。
 従業地による就業者数とは、当該都市に従業する（昼間人口ベース）就業者数を言う。
2. 流出率 = 流出就業者数 ÷ 常住地による就業者数 × 100
 流入率 = 流入就業者数 ÷ 従業地による就業者数 × 100
3. （従 / 常）就業者比率 = 従業地による就業者数 ÷ 常住地による就業者数 × 100

図表 1-14 流出・流入状況図（就業者）



図表 1－15 流出・流入別人口（通学者）

(平成 12, 17, 22, 27, 令和 2 年国勢調査 常住地・従業地における就業者・通学者数)

	常住地による 通 学 者 数	流 出		従業地による 通 学 者 数	流 入		従 / 常 通 学 者 比 率
		通 学 者 数	流出率		通 学 者 数	流入率	
	人	人	%	人	人	%	%
平 成 12 年							
平 成 17 年							
平 成 22 年	170	137	80.6	36	33	91.7	21.2
平 成 27 年	133	105	78.9	28	28	100.0	21.1
令 和 2 年	109	90	82.6	25			22.9

	流 出 先														
	流 出 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成 12 年		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 17 年															
平成 22 年	飯山市	65	38.2	長野市	43	25.3	木島平村	22	12.9	中野市	3	1.8	上田市	1	0.6
平成 27 年	飯山市	50	37.6	木島平村	19	14.3	長野市	18	13.5	中野市	4	3.0	新宿区	2	1.5
令和 2 年	飯山市	41	37.6	長野市	17	15.6	木島平村	13	11.9	その他市町村	2	1.8			0.0

	流 入 先														
	流 入 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成 12 年		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 17 年															
平成 22 年	非公表														
平成 27 年															
令和 2 年															

- 注1. 常住地による通学者数とは、当該都市に常住する（夜間人口ベース）通学者数を言う。
 従業地による通学者数とは、当該都市に従業する（昼間人口ベース）通学者数を言う。
2. 流出率 = 流出通学者数 ÷ 常住地による通学者数 × 100
 流入率 = 流入通学者数 ÷ 従業地による通学者数 × 100
3. (従 / 常) 通学者比率 = 従業地による通学者数 ÷ 常住地による通学者数 × 100

図表 1-16 流出・流入状況図（通学者）

